

Emergency Watch



神戸こども初期急病センター



2013年11月受診者数：1994人

訴え

1. 咳	:	901人 (279人)
2. 発熱	:	862人 (594人)
3. 鼻汁	:	685人 (30人)
4. 嘔吐	:	534人 (311人)
5. 呼吸困難	:	306人 (132人)

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

疾患頻度

1. 急性上気道炎・咽頭炎	:	552人
2. 感染性胃腸炎	:	466人
3. 気管支喘息・喘息性気管支炎	:	280人
4. 気管支炎・肺炎	:	103人
5. じんま疹	:	76人

今月のワンポイント！



いよいよ師走で寒くなりました。そして神戸こども初期急病センターは四回目の冬を迎えることになりました。11月を振り返りますと、当センターの受診患者さんは1,994人でした。受診された理由として一番多かったのは、「咳」で901人、二番目に多かったのは「発熱」で862人でした。当センターを受診される理由として最も多いのは、ほぼ毎月、発熱ですので咳の方が多き月は珍しいです。しかし、考えてみれば冬に咳が増えるであろうことは皆さん経験的に正しいと思われるのではないのでしょうか。

そこで今回、咳について触れたいと思います。最も多い原因は呼吸器感染症です。幼児は一年間に6-12回、呼吸器感染症にかかり、その多くはウイルス性です。このうち炎症の場所が鼻やのどだけの場合は風邪と呼ばれます。抗生剤はこの種類の咳には役立ちません。こどもたちは風邪の後、数週間、咳が続く場合があります。そしてやはり抗生剤は役立ちません。もちろん時には、のどや肺の細菌性感染症でも咳が起こり、この場合は医師によって抗生剤が処方されます。

夜間に咳が続く場合、その咳は喘息によるものであることがあります。喘息のこどもたちは、咳の他にもたいてい喘鳴や呼吸困難など他の症状が起こります。喘息のこどもたちは、他のアレルギーやアトピー性皮膚炎を持っていることがよくあります。

クループ症候群という声帯のそばが狭くなってしまっ起こる咳も重要です。この場合、声が嘎れて犬が吠えるような咳をします。空気の通り道が狭くなって肺の奥まで空気が届きにくくなるので呼吸苦も起こります。五歳以下のこどもで多く、夜に急に悪化することがあるので注意が必要です。

咳について自宅療養上のポイントを三つ挙げます。1) 咳以外に全身状態が良い場合は、重篤な原因はないことが多いです。2) 早く病院で診てもらわなければならないときは、咳があるだけでなく、他にも高熱、食欲低下、呼吸困難などがあって調子が良くないときです。特に呼吸困難は、速やかな対応が必要となります。3) たばこの煙は咳を悪化させますので、こどもたちが、たばこの煙を吸うのを避けることはとても大切です。

冬は空気が乾燥し、夜はかなり気温が下がります。部屋の加湿に気を配り、夜は暖かくしておくことをお勧めします。今回の年末年始は、九日間連続で一般医療機関がお休みになりますので、皆さんが良い準備をされて新年を元気に迎えられることを願っています。